

学位授与番号 医博乙第1124号  
学位授与年月日 平成3年3月20日  
氏 名 庄 司 俊 雄  
学位論文題目 風疹生ワクチン接種後の免疫抗体に関する横断的および追跡的研究

論文審査委員 主 査 教 授 岡 田 晃  
副 査 教 授 谷 口 昂  
教 授 中 村 信 一  
教 授 橋 本 和 夫

### 内容の要旨および審査の結果の要旨

ワクチン戦略の重要な課題として、抗体獲得状況の追跡と、抗体獲得の個人差の解明があげられる。

本研究は風疹ワクチン接種後の免疫抗体の面から、定期接種世代と妊娠可能年齢層における抗体保有状況を比較し、接種の効果とともに個人差との関わりについて追求した。すなわち、富山県内において16歳から26歳の女性2,935名については横断的に調査し、また妊娠可能年齢層については13年間に計10,441名を調べた。得られた成績は次のごとく要約される。

- (1) 風疹ワクチン接種率が近年90%を越える定期接種世代女性の抗体陽性率は、抗体測定法HI法およびEIA法ともに陽性である「真の陽性」率が95.5%を示し、各対照群に比べて有意に高率であった ( $p < 0.01$ )。
- (2) 定期接種世代の年度別ワクチン接種率と年齢別抗体陽性率との間には有意な相関を認めた ( $r = 0.76$ ,  $p < 0.05$ )。
- (3) 妊娠可能年齢婦人の2,979名の追跡調査から、任意ワクチン接種率が8.5%である成績を得た。また同年齢層には、風疹流行期に感受性者における感染率の増加がみられた。
- (4) ワクチン接種後に抗体の認められない被験者へワクチンの再投与を行なった結果、「真の陽性」抗体獲得率は68%に留まり、対照群(96%)に比べて有意に低率であった ( $p < 0.01$ )。
- (5) 2度以上のワクチン接種によっても獲得抗体の維持困難な例が認められた。

以上、本研究は、我が国における風疹ワクチン接種の主要な対象群におけるワクチン接種率と抗体保有率および自然感染状況を明らかにし、加えて個々の感染予防対策の必要性を明らかにしたものであり、母子保健学の領域に有用な知見を提供する労作と評価される。